

令和六年 第二十六期くまもと俳句ポスト

第二十六期開函

「霏霏Ⅱ」編集事務局 西口 裕美子 選

特選

その中に嬰抱く羅漢冬ぬくし

熊本県合志市

高村 聖恵

【講評】

雲巖禅寺から靈巖洞に至る斜面に在す五百羅漢。かなり摩滅しているが、様々な表情を見ることが出来る。静かだ。寒さが続く中、ふと暖かい日が訪れる幸せを表わす「冬ぬくし」。この季語が、そこそこに在す羅漢たちの拡がりまでも見せる。「その中に」嬰を抱いたように見える羅漢様を作者は発見したのだろう。もしかすると、かつて自分を抱いてくれた父の姿を見たのかも。陽の当たる幸せを改めて思う作者の心が察せられる愛の一句。

わが輩通り賞

阿蘇五岳表も裏も小六月

熊本県熊本市

佐藤 誠吾

入選

コーラスの声澄む城趾球媛忌

熊本県熊本市

山崎 綾子

猫座る漱石の家秋深し

熊本県熊本市

小山 禎子

西南の役の弾痕秋暑し

岐阜県岐阜市

笠井 智子

佳作

蝉時雨八雲呼び立ている如く

熊本県熊本市

矢野 友子

冬日さす城の長塀鳩群れて

熊本県熊本市

坂口 美穂子

錦秋や小国に博士の顕微鏡

熊本県熊本市

後野 陽

父の来し道をたどりし秋の島

山梨県南都留郡

志賀 奈都

名月に濡るる天守の薨かな

熊本県熊本市

芥川 卓

空港へ送り届けて夏終る

熊本県熊本市

中村 和徳

秋麗の旧居の庭猫闊歩せり

熊本県熊本市

岩木 靖子

彼岸花に誘われ植木の湯に一日

熊本県宇城市

永井 弘子

吾になほ空蟬剥がす力あり

広島県広島市

前田 節

赤とんぼ息子を想う水前寺

福岡県春日市

浦田 啓子

投句総数 百四十五句

市内 五十七句

市外 八十八句

開函日 令和六年十二月三十一日